

## ドラえもんと恐竜

京都大学理学部 1 回生 前田悠陽

突然ですが、恐竜は好きですか？

ドラえもんが好きな方なら、もちろん恐竜は好きだと思いますが（私は小学一年生のときに「のび太の恐竜 2006」を観て、恐竜に夢中になりました）、ドラえもんで描かれる恐竜の姿って、時代によって大きく変化しているんですよ。

来年（2020年）の3月に公開される映画のタイトルが「のび太の新恐竜」に決まりましたが、これで「のび太の恐竜」、「のび太の恐竜 2006」に続く、実に三度目の恐竜を主題にした映画となります。私は人生で初めて観たドラえもん映画が「のび太の恐竜 2006」だったこともあり、恐竜には強い思い出があります。

姿の変化が最も分かりやすいのは、やはり恐竜の王者、ティラノサウルスでしょう。

「のび太の恐竜」で描かれるティラノサウルスは、後ろ足で立ち上がり、人間のように地面に対して垂直に背筋を伸ばし、太い尻尾は地面につけているという、いわゆるゴジラ型です。他の恐竜との戦い方としては、後ろ足はほとんど動かさず、直立したまま前足で掴んで噛みつくという形をとっています。

一方で「のび太の恐竜 2006」で描かれるティラノサウルスは、背筋がまっすぐに伸び、地面に対して水平になるように体を前方に倒している姿です。尻尾は「のび太の恐竜」と比べて細く、そして短くなっています。体全体が細くなったためか動きも機敏になり、地上を駆け回りながら他の恐竜と戦うという、非常にダイナミックな戦い方をしています。

もう少し詳しく違いを見ていくと、身体の色は「のび太の恐竜」では深みがあった赤色であったのが、「のび太の恐竜 2006」では背筋に模様が入り、一部がクリーム色になっています。皮膚は「のび太の恐竜」ではゴツゴツとした岩のような肌だったのが、「のび太の恐竜 2006」では、比較的なめらかで伸縮性のあるうろことして描かれています。

このようにティラノサウルスの姿が時代と共に変化した理由については、後述する吊り橋構造や足跡化石の研究など、とても面白い事実がたくさんあるので、興味を持った方はぜひ調べていただきたいです。

映画に対して、漫画版に描かれる恐竜の姿は連載期間を通してほとんど変わっていません。「恐竜ハンター」（てんコミ 2 巻 初出：1970 年）や「宇宙ターザン」（てんコミ 16 巻 初出：1978 年）、「恐竜が出た!？」（てんコミ 21 巻 初出：1979 年）、「恐竜さん日本へどうぞ」（てんコミ 31 巻 初出：1981 年）に登場する肉食恐竜（※例えば「恐竜ハンター」に関しては、タイムマシンでの行き先（一億年前）がティラノサウルスの生息時期と異なるためティラノサウルスとは別の肉食恐竜と考えられ、同様に他の作品においてもティラノサウルスと明示されている

ものは少なかったもので、単に肉食恐竜としました)の姿は全てゴジラ型です。これは、恐竜の姿勢が吊り橋構造(後肢が柱、靭帯がワイヤーの役目を果たし、背骨や尻尾の骨を吊って支える構造)によって成り立っている(つまり、背筋が地面に対して水平になるような姿勢を取っていた)という考え方が一般的に知られるようになったのが1990年代ごろからであるということを踏まえると、時系列としては何ら問題はありません。

実際、1990年代以降の作品である「のび太の銀河超特急」(1995～96年)にはティラノサウルス(ロボット)が登場しますが、その姿はそれまでのゴジラ型とは異なり、背筋を水平に保つ姿へと変わっています。

「のび太の新恐竜」について、公開された特報映像には、羽毛の生えた恐竜がほんの一瞬だけ登場しています。羽毛恐竜が認知されるようになったきっかけは、1996年に中国の遼寧省で発見されたシノサウロプテリクスという獣脚類の化石です。最近では恐竜図鑑にも羽毛が生えた恐竜のイラストが多く描かれるようになりましたし、「のび太の新恐竜」でも今まで登場してこなかった羽毛恐竜が登場するかもしれません。

藤子・F・不二雄先生は恐竜について「(恐竜は)分からない部分が実に多い。何か新発見がある度に、少しずつ恐竜像というものが塗り替えられています。そんなところに、ミステリーでも読んでいるような面白さがありますね。それが、子供も大人も恐竜というものに引かれ続けている理由なのではないでしょうか?想像力をかきたてる余地は、まだまだあります。」(藤子・F・不二雄大全集 別巻 藤子・F・不二雄の異説クラブ p.222)と語っています。

「のび太の恐竜」から「のび太の恐竜2006」、そして「のび太の新恐竜」へと、新たな発見があり、恐竜の姿は変わっていきます。それでも、ティラノサウルスの羽毛問題のように、未だに2つの説を行ったり来たりしている問題もあります。ドラえもんという作品を通じて、そうした新発見に心躍らせたり、恐竜の謎について想像を膨らませたりするのも一つの楽しみではないでしょうか。

恐竜の描かれ方が変わっても、子どもたちにとって、もちろん大人にとっても恐竜が非常に魅力的な存在であることは、きっと変わらないでしょう。

「のび太の新恐竜」では、恐竜たちはどのような描かれ方をするのでしょうか。ひとりのドラえもんファン、そして恐竜好きとして、とても楽しみです。

#### 参考図書

『新説 恐竜学』平山廉(株式会社カンゼン)

『恐竜の教科書』【著】ダレン・ナイシュ/ポール・バレット【訳】吉田三知世(創元社)